給　食　だ　よ　り

平成25年度　1月　さいたま市立南浦和中学校

全国学校給食週間の始り

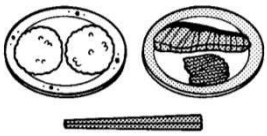
1月24日から30日は「全国学校給食週間」です。給食の歴史や役割について考えてみましょう。

明治２２年に始まった給食は、戦争中に一時中断していましたが、ララ（米国の民間団体）などからの援助物資を受けて昭和２１年１２月２４日に東京、神奈川、千葉で再開されました。この日を記念して「学校給食感謝の日」と定められていましたが、その後、冬休みに重ならない１月２４日から３０日を「全国学校給食週間」とし、給食の意義や役割について、理解や関心を深める週間となりました。

南浦和中学校では給食週間と２学年の自然の教室の期間が重なってしまうので、２８～３１日にずらして特別メニューを実施します。

日本の学校給食の歩み

明治２２年

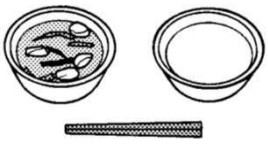


献立内容

おにぎり　塩さけ　菜の漬物

学校給食は、明治２２年に山形県鶴岡町忠愛小学校で、貧しくて生活に困っている児童を対象に昼食を出したことが始りだとされています。

昭和２２年

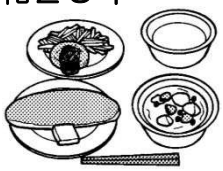


献立内容

ミルク（脱脂粉乳）　トマトシチュー

戦後、栄養失調状態の子どもたちを救うためアメリカの民間団体からの援助物資（ララ物資）により、昭和21年12月24日に学校給食が再開されました。

昭和２５年



献立内容

コッペパン（マーガリン）　ミルク（脱脂粉乳）　コロッケ　ポタージュスープ
千切りキャベツ

アメリカからの寄贈小麦を使用したパン、ミルク、おかずによる完全給食が8大都市で実施されました。

昭和４０年

献立内容

ソフトめんのカレーあんかけ　牛乳　甘酢和え　果物（桜桃）　チーズ

昭和39年以降、学校給食に本格的に牛乳が取り入れられるようになりました。

昭和５２年

献立内容

カレーライス　牛乳　スープ　塩もみ　果物（バナナ）

米飯は、教育上有意義と考えられ、昭和51年度以降は米飯給食が広がりました。

現在の給食

学校給食の始りは、貧困児童を栄養不足から救うためのものでした。しかし、今では、栄養補給の役割のほかにも、食品を選択する能力、食事のマナー、感謝の心、地域の食材や郷土食などについて学ぶ教材としての役割もあります。